

I B-27

サル、ラットの肝臓、胃腺、骨格筋、副腎皮質のスーパーオキシドジスムターゼ (Cu-Zn-SOD) の組織化学的検出

石田哲也、牧田登之

(山口大・農・家畜解剖)

胃粘膜におけるCu-Zn-SODの局在は、ラット、ヒトにおいて胃底腺の壁細胞(旁細胞)の細胞質にみられることが、そのモノクローナル抗体を用いて報告されている。これを電顕組織化学へ発展させる目的で、固定条件を吟味しながらサル(日本ザル、マントヒヒ)とラットの肝臓、胃腺、骨格筋、副腎での局在を観察した。

固定条件は、(1) 4%パラホルムアルデヒド、(2) 2%グルタルアルデヒド、(3) 2.5%グルタルアルデヒドと2%パラホルムアルデヒドの混合液、(4) 無固定とした。

染色性は、(1) > (3) > (2) > (4) の順に強かった。胃底腺の壁細胞ではヒトの場合と同様に細胞質が陽性である他に(1)~(3)で固定したものでは核が陽性であった。しかし(4)では核は陰性であった。肝細胞でも(3)では核が陽性であるが(4)では核が陰性で、(1)では核が陽性のものと陰性のものとがあった。骨格筋での反応は微弱であったが核は陽性であった。副腎皮質では網状帯に陽性細胞がみられた。

I B-28

ハムスターの種々の上皮組織におけるサイトケラチン(56、64kd)陽性細胞の分布

辰巳治之、伴 忠延、藤田尚男
(大阪大・医・第三解剖)

ハムスターの種々の上皮組織における、サイトケラチン(56kd、64kd)の存在を免疫組織化学により検索し、サイトケラチン陽性の上皮を組織学的に次の5型に分類した。1、重層扁平上皮細胞(表皮、食道上皮) 2、管系の上皮細胞(唾液腺の導管、胆管、Hering管、膵管、腺房中心細胞、尿管、腎臓の集合管) 3、膀胱及び胆嚢の上皮細胞 4、漿膜上皮細胞(中皮)(肝、胆嚢、卵巣を被う腹膜上皮) 5、その他(胸腺の上皮性細胞、ハッサル小体、脾島の諸細胞、胃腸管の上皮に散在する内分泌細胞様細胞)。これらの細胞は一般に細胞内小器官の発達が悪く、よく発達した中間径フィラメントの束を持つ。この結果から、サイトケラチンは機械的刺激を受けやすい部位にある細胞、また細胞の形状を保持し管の内腔の開存性を保つ必要のある導管系の細胞に存在することが分かった。また胸腺の上皮性細胞のように、間葉系の組織の中に混在し由来が複雑になっているものでも、サイトケラチンの検索により細胞の由来や近縁関係を示すことができる。さらに、胃腸管の上皮に見られたこのサイトケラチン陽性細胞は、その分布や細胞の形から消化管の内分泌細胞と考えられる。